

1月 給食だより

昭和村学校給食センター
TEL : 24-6210

新しい年をむかえ、いよいよ学年最後の学期となりました。感染症を予防するためには、きちんと手を洗うこと、1日3回栄養バランスのとれた食事をしっかり食べること、ストレスや疲れをためないことが重要です。引き続き、一人一人が感染予防を徹底し寒くて起きるのがつらい時期ですが、早寝・早起きをし、朝ごはんを食べて元気に登校しましょう。

1月の目標.....
食文化について知ろう!!
.....



1月の行事と食べ物

正月三が日が明けてからも、7日の「人日の節句」、11日の「鏡開き」、15日の「小正月」と、正月行事が続きます。人日の節句には、7種類の若菜を入れた「七草がゆ」を、小正月には、小豆を入れた「小豆がゆ」を食べて、1年の無病息災を願う風習があります。年末年始のごちそうで疲れた胃腸を休めるのにも、ぴったりの行事食です。

また、鏡開きでは、歳神様にお供えていた鏡もちを下げて、お汁粉などにして食べ、家族の健康や幸福を願います。鏡開きのもちを小正月の小豆がゆに入れることもあります。



1月24日~30日は「全国学校給食週間」です!



1月24日から30日の1週間は「全国学校給食週間」です。第二次世界大戦後の日本は食糧不足に見舞われました。こうした状況に世界各国から支援物資が届けられ、戦争で中断されていた学校給食が再開されました。「全国学校給食週間」はこの再開を記念して行われている行事です。戦後、学校給食は学校で行われる教育活動の1つに位置づけられました。成長期の今だけでなく、将来にわたって健康で心豊かな生活を送るために大切なことを、毎日の給食を通して学んでいく場になっています。

学校給食の歴史を知ろう！



学校給食は、明治22年山形県鶴岡町（現在の鶴岡市）の私立忠愛小学校で、貧しい家庭の子どもたちに昼食を提供したことが始まりとされています。忠愛小学校はお寺の中にあり、お坊さんたちが米や野菜、魚などで食事を作って、無償で提供していました。その後学校給食は子どもたちの栄養を改善するための方法として国から奨励され各地へ広まっていきましたが、戦争による食料不足の影響で実施できなくなりました。

明治 22 年ごろ	大正 12 年ごろ	昭和 17 年ごろ
<p>おにぎり 塩ザケ 漬物</p>	<p>五色ごはん 栄養みそ汁</p>	<p>すいとんのみそ汁</p>

戦争が終わり、子どもたちの栄養状態の悪化が心配されたことから、1946（昭和21）年に、アメリカのLARA（アジア救援公認団体）から給食用物資の寄贈を受け、翌年1月から学校給食が再開されました。当初は給食用物資の贈呈式が行われた12月24日を「学校給食感謝の日」としましたが、1950（昭和25）年度からは冬休みと重ならない1月24日～30日を「全国学校給食週間」と定められました。



昭和 22 年ごろ	昭和 27 年ごろ
<p>ミルク（脱脂粉乳） トマトシチュー</p>	<p>コッペパン ミルク（脱脂粉乳） 鯨肉の竜田揚げ せん切りキャベツ ジャム</p>

昭和25年に、アメリカから寄贈された小麦粉でパンが作られ、「パン・ミルク・おかず」の完全給食が始まりました。

1954（昭和29）年に「学校給食法」が公布・施行され、学校給食は教育活動として実施されることになりました。それから、時代の移り変わりとともに、子どもたちの食生活を取り巻く環境は大きく変化し、学校給食の内容も変わっていきました。

昭和 40 年ごろ	昭和 51 年ごろ
<p>ソフトめん ミートソース 牛乳 フライポテト 黄桃</p>	<p>カレーライス 牛乳 塩もみ ゆで卵</p>

昭和30年代後半には脱脂粉乳のミルクが牛乳へと切り替わり、コッペパン以外のパンやソフトめんなど、主食の種類が増えていきました。米飯が正式に導入されたのは昭和51年のことです。

1954（昭和29）年に「学校給食法」が公布・施行され、学校給食は教育活動として実施されることになりました。それから、時代の移り変わりとともに、子どもたちの食生活を取り巻く環境は大きく変化し、学校給食の内容も変わっていきました。